

# 北陸石仏の会々報

## 砺波型狛犬

尾田 武雄

富山県砺波市には、富山県神社庁編『富山縣神社誌』（昭和五十八年刊）によると、神社数が一四〇社記載されている。その多くには狛犬があり、平成二七年にそれらすべての神社を参拝し、狛犬の調査を行った。氏子の少ない山間部などの神社には狛犬が無いのが二五社あった。面白いのが油田中村の神明宮は、神様が猿であるので狛犬を神社に入れると、けんかをされるので、あえてないとされている。またちなみに集落には犬を飼わないとされている。

狛犬の多くは、神祠の合祀が完了する明治後半から昭和前期が多く建立されている。戦後も盛んであるが県外の愛知県岡崎などで制作されたものが多い。高度成長期を終えたころからも建立されるが、平成に入ると中国製狛犬が増え始める。そんな中で、地域性があり特徴的で個性ある狛犬は、明治故後半からの制作された狛犬であろう。

砺波地方は、グリーンタフの金屋石や砂岩質の井波石が採掘される所であり、また真宗の篤い地でもある。真宗は神祇不拝とされるがこの地では明らかに当てはまらない。また造塔、起塔も本願にあらざとされているが石仏なども南砺市、小矢部市、砺波市などで約五千体もある。一生の間一千体の石仏を制作した名石工森川栄次郎などが輩出している地である。狛犬も充分に魅力的であることは想像できていた。



狛犬に銘があるのは多くはないが、個性ある石工を一人紹介しておきたい。庄川町示野神明宮「大正十二年九月」「石工井波森野善四郎」。庄川町三谷水宮神社「大正十五年二月建立」「石工井波森野善四郎」がある。南砺市野原神明宮には「大正八年八月二十九日」「石工井波森野善四郎」。同市広安平田神社にも「石工井波森野善四郎」がある。ほかにもまだ多くあると思われる。森野善四郎作の狛犬は、ずんぐりと堂々とし、しっかりと足を地についたスタイルで首を屈め、左右とも阿形で口を開けているのが特徴である。富山市婦中町鵜坂の鵜坂神社境内にもこの狛犬がある。あまりにも類例がなく特徴的であるので、砺波型と称したい。（写真は庄川町示野神明宮の狛犬）

### 第49号

平成28年4月1日発行

編集と発行

### 北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 平井一雄

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・ 砺波型狛犬
- ・ 常願寺川左岸の疫神
- ・ 明如上人巡教のいしづみ
- ・ 第51回例会報告
- ・ 第52回例会案内

## 常願寺川左岸の疫神

滝本 やすし

常願寺川は古くから暴れ川として知られ、幾度も氾濫を繰り返してきた。特に安政五年（一八五八）の二度の大洪水では、左岸の広い範囲に大きな被害をもたらした。また氾濫による濁り水の流入によって各地で疫病が流行した。常願寺川の堤防付近には、洪水によって流されてきた巨石が数多く残されている。またこの地域には、水の安全を願う水神塔や洪水による犠牲者の供養塔がいくつも建てられている。

常願寺川左岸地域に祀られている疫神を訪ねてみた。疫病を防ぎたいとの人々の願いが、どのような形で残されているのだろうか。

### ①富山市上野 大川寺参道／「疫神社」

曹洞宗大川寺参道には、いくつもの石仏や石塔が建てられている。青面金剛（庚申）の左手前に、小さな石塔が建てられている。正面に「疫神社」、左側に「明治二己巳歳七月立」と刻まれている。本体の高さ51 cm、幅24 cm、奥行13 cm。

この辺りは高台なので洪水が及ばない場所であるが、疫病は洪水の時ばかりでなく様々な要因によって流行する。庚申様は病氣平癒や災難除けのご利益があることから、疫神社も併せて祀ったのであろうか。

### ②富山市下番 下番神社／「疫神社」

下番神社境内に自然石の石塔が建てられている。正面に「疫神社」と刻まれているが、他には文字などは刻まれていない。本体の高さ92 cm、幅47 cm、奥行35 cm。

### ③富山市大場 神明社／「牛頭天王」

神明社境内に、立派な石積みのお台座の上に一基の石塔が建てられている。割石型の石塔で、正面中央に大きく「牛頭天王」と刻まれている。その上や左にも文字が刻まれているのだが、磨滅が激しく判読できない。また左側面

に「：月建之」と刻まれているが、年号の部分が完全に磨滅しており、造立年を特定できない。本体の高さ119 cm、幅57 cm、奥行40 cm。

牛頭天王は本来は疫病を流行らせる行疫神であったが、祀り祈ることによって疫病を鎮める信仰へと変化していった。

大場の常願寺川堤防脇には、安政五年の大洪水の時に流されてきた巨石が残されている。

### ④富山市太田 路傍／「疫神社」

太田バス停向かいの地蔵堂の脇に、笠付き角柱型の石塔が建てられている。正面に「疫神社」と刻まれている。他には文字などは刻まれていないようである。本体の高さ63 cm、幅25 cm、奥行16 cm。総高106 cm。

### ⑤富山市中川原／「疫神」

中川原に、自然石に「疫神」と刻まれた石塔が建てられているそうである。調査に向かったが、所在を確認できなかった。

いつの頃かはわからないが中川原で疫病が流行し、村は壊滅状態に陥ったと伝えられている。中川原の農地の一角には、安政五年の大洪水で流されてきたという巨石が残されている。

### ⑥富山市梅沢三丁目 円隆寺／牛頭天王

天台宗円隆寺はいたち川の左岸に位置しており、山門に「祇園牛頭天王」の額が掲げられている。木造の牛頭天王立像を本尊としている。

境内で行われるさんさい踊りは、京都祇園祭の日にあわせて行われている。女の人達だけで行われる踊りで、祇園信仰とかわそ信仰とが習合した祭りであらうか。

### ⑦富山市石倉町 いたち川べり／延命地蔵

安政五年の大洪水によって疫病が流行った時に、石倉町の甚九郎は、いたち川から一体の地蔵を引き上げた。すると疫病はすぐに快方に向かったという。

地蔵堂の前から湧き出る水は万病に効く延命地蔵尊の水とされ、連日多くの人々が汲みに訪れている。

## ⑧富山市上飯野 素盞鳴社／素盞鳴尊

素盞鳴社の祭神は素盞鳴尊で、天照皇大御神を合祀している。明暦二年（一六五六）の洪水以降に、水害や疫病除けを願って建てられたと伝えられている。安政五年の大洪水の時には、この場所の手前で濁流が左右に分かれ、この辺りは被害を免れた。

常願寺川左岸地域には「疫神社」と刻まれた石塔が三基、「疫神」と刻まれた石塔が一基みられる。伝承が不明であるが、同地域に「牛頭天王」と刻まれた石塔が建てられており、蘇民将来伝説に基づく京都八坂神社境内摂社の疫神社を招請したことが考えられる。



③大場神明社「牛頭天王」



②下番神社「疫神社」



①大川寺参道「疫神社」



⑥上飯野素盞鳴社



⑤円隆寺本尊木造牛頭天王



④太田路傍「疫神社」

## 「明如上人」越中・飛州巡教のいしづみ

平井 一雄

### ①合寺令と明如上人

明治三年十月二十七日発令された「合寺令」は明治五年に撤廃された。大打撃を受けた富山藩の真宗寺院の復興を願われた西本願寺第二十一世明如上人は明治十年（一八七七）八月十四日富山藩を御巡教になった。富山寺町常楽寺に御泊りになり、新川郡中坊主達残らず当寺に集合した。

八月十九日富山を離れ、有沢の舟場を渡り。八尾を御通りになり西山中より、飛州へ趣かれた。

### ②大長谷村お通りの明如上人

明治十年八月より西本願寺の明如上人が御出でになるといので、大長谷村は各部落より道路なおしに人夫が出て奉仕した。旧暦八月二十二日（新暦九月二十八日）の晩は花房、当時の花井彦四郎方でお泊りの予定で駕籠で仁歩村武道原の貝取の高の倉ヶ谷越しをした貝取部落の高の処で休まれたと言う。

そこには大きな岩があつて何時通つてもお花が供えてあつた。それから尾畑、大玉生を通り大玉生坂の頂上（横平峠）で駕籠を止めて休まれた。

明るる二十九日は、島地の山崎さんに泊まれた。

次は庵谷の庵さん方で休まれて越中の国での休みじまいで大長谷の人達は、飛驒の国金山平の原仁平が住んでいた処まで見送りしたそうだ。

大長谷川の川を四十八瀬も渡り、東側西側と渡りして飛驒へ通つたという細い山道を村人は道なおしに出て見送りに原山まで、明如上人につきそつて行った。

### ③記念碑 『大長谷郷土史』、『仁歩郷土史』より引用

武道原峠には昭和61年に御駕籠留の碑が建立された。横平峠にも昭和11年に建立された明如上人御籠留の記念碑がある。また三ツ松の真通寺に急拠建

立された客殿で明如上人がご休憩されたという。真通寺には明如上人御消息がある。

④飛騨路の明如上人 「飛騨編年史要」 大正10年11月発行より

明治十年九月二十九日、西本願寺法主大谷光尊（明如）、越中八尾町より二つ屋越してこの日古川町へ着し、翌日高山勝久寺へ巡化し、十月二日より古川真宗寺を別院代に擬して法会執行、同四日街道を越中国へ帰還す。

⑤越中へ帰還した明如上人 高見清之『ふるさと栗山』より意訳。

飛州より三十日余り経て御帰りになり八尾を越えて、萩島村御坊（中略）土淵を新舟にて御越しされて、秋ヶ島村齋藤長吉郎方にて御小休、それより新保村齋藤方（長吉郎殿ノ別家）大門より路地を御通り（中略）、それより往還へ出て、任海村の小道を御通り、それより栗山村を御通り、円教寺の前にて御駕罷を留めて、堂正面に向われ、御尊様へ御礼拝を遂げ、それより惣在寺村、福居村より塩村大永寺にて中食をなされ、御髪剃あり。又出立相成り、大久保野村を通り、上大久保江戸武士の裏方から、飛騨往来へ出、二十丁程北へ下られ、下大久保の法林寺で御小休成し、久左右エ門裏方の小道より東を指して合田村、小黒村から（以下略）

⑥巡教記念碑

以下の地区に明如上人巡教記念碑や名号墓碑、歌碑がある。

- ・富山市新保地区 中野バス停脇
- ・富山市塩 「大永寺」門前 写真1
- ・富山市八尾町 「裕教寺」門前
- ・富山市仁歩地区 「武道原峠」
- ・富山市大長谷地区 「横平峠」 写真2
- ・富山市片掛 「西念寺」門前
- ・富山市任海 宮田家惣墓「明如上人筆名号」
- ・富山市黒瀬谷東坂下 「明如上人歌碑」

⑦明如上人来歴 『真宗事典』・『明如上人遺芳録』より

本願寺派本願寺第二十一世。

童名峨君（やかぎみ）、諱は光尊。嘉永三年二月五日誕生。

本願寺傳燈第二十世の法主「廣如上人」の六子なり。維新に際して良く勤王に尽くし、また教学に意を用い、身を持つること頗る謹厳であった。

明治三十六年、五十四歳にて寂した。



写真2. 富山市八尾 横平峠 明如上人由蹟碑



写真1. 富山市塩 大永寺 明如上人留錫地

## 第51回例会「加賀温泉郷守護寺の石仏めぐり」に参加して

長谷 かおり

今回の訪問先は、粟津、山代、山中、片山津温泉の守護寺、いずれも真言宗、本尊は薬師如来です。最初に訪れたのは粟津、大王寺。のとやさんの脇から延びる石段を上がると、粟津の町を見渡せる高台に本堂、その奥に白山神社が鎮座しています。そこから小径を下り滝の流れる公園まで、西国三十三カ所観音を巡りながら気持ちのよい散歩コースになっています。大岩山の不動明王をはじめ、粟津を開湯したといわれる泰澄大師の像、滝の傍には愛染明王と不空羂索観音がありました。不空という言葉は初めて聞きました。仏教において空は肯定されるものとばかり思っていましたのでちよつと混乱します。あれもあればこれもあるのが仏の教えの不思議です。

次の目的地、医王寺に向かう途中、浄土宗の念仏行者、光導が、洞窟で8年間修行を積んだと言われる鶴ヶ滝へ立ち寄りしました。滝のたもとには不動明王がいらつしやいます。澄み切った空気と水の流れ、それ以外に何も無いこの清浄の処において、光導は何を成就されたのでしょうか。ちよつと考えた時、或は何も考えたくない時、現代人にとっては図書館代わりに訪れたい場所でした。あ、虫コナーズは要るよね。美味しいコーヒーも絶対欲しい！やっぱり行者にはなれません。

山中、医王寺は温泉街の西、山肌に沿うように参道が続ぎ、狛イノシシが護っている愛宕地蔵をはじめ河濯明神、不動明王などが祀られています。本堂横の宝物館には芭蕉が忘れていった杖や、街の由来を伝える絵巻絵図などが展示され、さながら山中温泉博物館といったようす。境内から山手に続く小径では西国三十三カ所観音も巡れるとのこと、またゆつくりと訪れたいお寺でした。そして後で調べたところによると、京都愛宕山を開山した和氣清麻呂を祀る護王神社（京都御所西）にはイノシシさまがうじゃうじゃ居る

のだとか。萌えます。

山代、温泉寺。比叡山から移り住んだ明覚上人が、ここで五十音を作り上げたとされるお寺です。後方の薬師山では、あいうえおの標をたどりながら四国八十八ヶ所の石仏を巡ります。途中、国の重要文化財に指定されている明覚上人の供養塔（五輪塔）が立派な覆屋に納められていました。長久元年（一〇四一）とありましたが、彫刻も造形も美しく、地元の方にとっても大切にされていることが伝わりました。

最後に伺ったのは片山津の愛染寺。金沢にあった愛染院を当地に移し薬師如来を本尊とされたそう、愛染明王はというと…本堂脇に建てられた立派な護摩堂の中心で、真つ赤なふかふかの蓮華座に座していらつしやつて、よかつた、よかつた。そして境内から堂内までたくさん仏様が安置されていますが、本尊とともに秘仏とされている石仏がひとつありました。柴山瀉の底から綱に掛かつて引き上げられたお地蔵さままで、お正月しか公開されないのだそうです。片山津での初詣を楽しみに待つことにしたいと思います。

粟津大王寺にて記念撮影



北陸石仏の会 第52回例会  
**— 立山町の石仏めぐり —**

平成28年5月15日(日)

参加費：5000円 (バス・資料代)

集合場所：①JR金沢駅西口……6時40分

②JR砺波駅南口……7時20分

③大沢野文化会館……8時00分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成28年5月6日(金)

案内：滝本やすし(金沢市)、平井一雄(富山市)

**見学予定**

- ◎岩峯寺 路傍／「不動明王」、「道祖神」、五輪塔陽刻板碑ほか
- ◎宮路 仏事会館／百観音、秘鍵大師、義賢名号塔ほか
- ◎米道 路傍／五劫思惟阿弥陀
- ◎小林 路傍／誕生釈迦
- ◎上瀬戸 公民館(延命寺跡)／五如来、西国三十三ヶ所観音、准胝観音、虚空蔵菩薩ほか
- ◎下瀬戸 路傍／地藏、文殊菩薩、普賢菩薩、不動明王、青面金剛ほか
- ◎日中 観音堂／西国三十三ヶ所観音、虚空蔵菩薩
- ◎日中 路傍／文殊菩薩、肩掛地藏
- ◎金剛新～瀨上 路傍／善光寺式阿弥陀三尊、薬師如来、観音、地藏、文殊菩薩、普賢菩薩、虚空蔵菩薩、不動明王、金剛童子、青面金剛ほか
- ◎日水 観音堂／西国三十三ヶ所観音、金毘羅王、脱衣婆
- ◎五郎丸 路傍／五如来、五輪塔陽刻板碑

[諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。]



秘鍵大師



誕生釈迦



善光寺式阿弥陀三尊



金剛童子

平成28年度の会費を、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。